

事例 66 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

- ・疾病の影響の可能性もあると思われる。
- ・逆さまつ毛があり、眼科通院時に抜いている。
- ・目がゴロゴロするとの訴えがあり、眼科医によると「ドライアイが原因でないか。」と診断を受けている。現在、ドライアイ改善のための点眼薬が処方されている。
- ・眼科に通院しているので、「まぶしさ」などの症状を説明し、眼科医の見解を聞いてみる必要がある。

【質問】妄想めいた発言が聞かれるとのことですが、Aさんなりの根拠に基づいた発言と思われるか？あるいは、レンドルミンなどの服用薬の副作用による影響は考えられますか？

【回答】

まぶしさについては、光量が多い場所であり、Aさんなりに事実と根拠に基づいた発言であると考えられます。私たちもまぶしさを感じる場所でした。看護職員やスタッフとも副作用について話し合いましたが、薬の影響はほとんどないのではないかと結論になりました。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

- ・リビング内で食事をする際、「まぶしいから目が痛くて。」と話し、夕食時に、「居室で食べたい。」との要望が聞かれることが多い。「まぶしいから目がつぶれる。」と話したこともある。
- ・照明の真下の席で食事をしている。

【質問】まぶしさを訴えることは、夕方に多く聞かれますか？朝昼の状況や日差しの下での活動時はいかがですか？

【回答】

3カ月前に、まぶしさへの対応として座席の場所を移動しています。当初は蛍光灯の下で座席であり、日中は日差しが強い場所であったため、事実まぶしさを感じることも多い場所であったと思います。場所を変更して以降、「まぶしいから目がつぶれる。」といった発言はほとんど聞かれなくなりました。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

- ・膝の痛みの訴えが、一月月に1度くらいの頻度で聞かれる。「薬をつけたかどうか」自問自答している様子である。

本人の言葉や状態

ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

- ・「目薬をさしてほしい。」との希望が5分～15分おきに頻繁にある。点眼を行ったスタッフが説明するが、「どこでさしたの？今日はまだ一度もさしていないじゃない！」と激怒する。
- ・目薬をさした1時間後ごろより、「目薬をさしたせいで眼がつぶれてしまう。別の目薬をさしているんじゃないの？いい加減、眼医者へ連れて行ってちょうだい！」とわめきたてる場面もある。薬や医療に依存心が強い傾向が見受けられる。
- ・リビング内で食事する際、「まぶしいから目が痛くて。」と話し、夕食時に、「居室で食べたい。」との要望が聞かれることが多い。「まぶしいから目がつぶれる。」と話すこともある。
- ・困ったときは、家族に連絡をしてみたいとの要望がたびたび聞かれていたが、ここ数カ月はその要望があまり聞かれなくなっている。
- ・目薬をさしたという認識がなく、訴えが頻繁に聞かれている。短期記憶障害の進行が見受けられる。
- ・他者に物を盗られる恐れを感じており、たんすを他人にいじられないように細工をしたりしている。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

- ・マイペースな方であるが、社交的な一面も見られる。薬や医療に依存心が強い言動がしばしば聞かれる。

【質問】薬、医療に依存することは、Aさんにとってどんな不安の裏返しだと考えられますか？

【回答】

今回、Aさんにたずねたところ、「誰か身近な人がそばにいたいわね。」との返答がありました。日常生活の中では、悲壮感や寂しさを感じさせる言動や表情はあまり見られませんが、心の中を察すると、家族と離れた生活の中で、寂しさや孤独を感じているのかもしれない。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

- ・困ったときに、「家族に連絡をしてみたい」との要望がたびたび聞かれていたが、ここ数カ月はその要望があまり聞かれなくなっている。家族の面会は一カ月に1～2度である。
- ・「家族に目薬を買ってきてもらわなきゃ。こんな所にいられない。」という訴えの後、「電話をかけてほしい。」という訴えがあったが、電話をしてほしいといった要望が聞かれなくなっている。

【質問】面会時のAさんと家族は、それぞれどのような様子ですか？

【回答】

部屋で末の娘と会話しているときが一番、甘えている様子が見受けられます。

【質問】家族以外の親類やなじみの人の訪問などはありますか？

【回答】

ありません。

【質問】他の入居者とのかかわり、関係はいかがですか？

【回答】

食事のときに同席する方々とは会話をしています。関係は良くも悪くもない感じです。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

- ・誰でも居室の中に入ることができる環境。扉に施錠はしていない。そのため、他者から物を盗られる恐れを感じており、たんすを他人にいじられないように、細工をしたりしている。

【質問】ホームにおけるAさんにとってのくつろげる場所、快を感じられる場所はありますか？

【回答】

落ち着いて過ごす場所は居室のようです。居室のベッドで過ごしているときは、「ここにいれば物を盗られる心配がないから。」と話しています。社交的な性格でもあり、居室に他利用者がいないことが分かると、リビングに来て同席者と会話を楽しみ、くつろいでいます。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)とのズレによる影響は考えられますか？

- ・目薬をさしたという認識がなく、訴えが頻繁に聞かれている。短期記憶障害の進行が見受けられる。
- ・1日4回という点眼の時刻を憶えられなくなっており、時刻をスタッフに何度もたずねることがある。
- ・点眼の表を部屋に掲示しているが、大半は見えていない。見てもらうが、「まだ一回もさしてないわよ。」と話す。
- ・説明は時間をかけて行うが、「嘘ばかり言っているんじゃないわよ。」と怒りだす。

【質問】Aさん自身が自分で点眼する能力はいかがですか？

【回答】

能力的には回数判断ができないため、際限なく点眼する可能性が高いです。自己管理も困難だと思われます。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

- ・自分で目薬をさしていた習慣があるため、管理されていることを不満に思っている発言が時々聞かれる。回数を把握できなくなっているため、入居以前から既に目薬は管理する方法がとられ、現在も職員が管理している。
- ・施設に暮らしているという認識がなく、病院あるいは病院のような建物と捉えているが、そのことに対する不満は聞かれていない。

【質問】Aさんがホームで生活することを、自身でどのように意味づけしていますか？

【回答】

最近、「施設で生活していることは分かっている。」と話しています。子どものそれぞれの生活も理解しており、施設で生活することを受け入れていると話していました。